

第4回 障害者自立支援協議会（会議録）

1 日 時

令和5年（2023年）2月16日（木） 13:40～15:35

2 場 所

障害福祉センターひまわり 会議室、リモート（井上委員）

3 案 件

1. 各連絡会からの報告

2. 各部会からの報告

（1）地域課題検討部会

（2）地域包括ケアシステム推進部会

3. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議について

4. その他

4 出席者（順不同）

（1）委 員

会 長 上田 哲郎（少路障害者相談支援センター）

委 員 森嶋 翼 （豊中市障害児通所支援事業者連絡会）

委 員 井上 康 （えーぜっと）

委 員 小西 文明（豊中精神障害者当事者会 HOTTO）

委 員 鍋島 康秀（ピープルウォーク）

委 員 中村 知（豊中市身体不自由児者父母の会）

委 員 星屋 好武（豊中市手をつなぐ育成会）

委 員 坂田 沙知子（豊中市障害相談支援ネットワークえん）

委 員 芳賀 大輔（豊中市障害者就労支援連絡会）

委 員 渡邊 亮 （豊中市障害者居宅介護・移動支援事業者連絡会）

委 員 水上 さゆり（豊中市障害者グループホーム事業者連絡会）

委 員 中島 正恵（豊中市手をつなぐ育成会）

(2) 事務局

杉本 博一 (中央障害者相談支援センター)
藤原 靖浩 (庄内障害者相談支援センター)
河本 真樹 (障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係長)
中田 安紀 (障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係)
岩崎 剛 (障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係)

(3) 傍聴者

3人

(4) 欠席者

副会長 謝 世業 (柴原障害者相談支援センター)
委 員 松田 勝紀 (豊中市障害児者日中活動事業者連絡会)

—開 会—

事務局 （欠席者報告、傍聴報告、資料確認）

会 長 （開会の挨拶）

こんにちは。今年度は最後になります。今日もいろいろたくさんの意見をいただき
きたいと思います。よろしくお願いします。

案件 1. 各連絡会からの報告

委 員 <障害相談支援ネットワークえん>

年4回の全体会議を開催、9月14日と12月14日は北野先生を招き学習会
を行った。内容は前回も報告したが、相談員の仕事はどこまでというテーマで講義
を聞き、相談員の悩み事からテーマを引っ張り出して行った。先生の講義の振り返
りの中で、相談員は「何でも屋ではない」との言葉を頂いてホッとしたことと、相
談員の気持ちで「してあげないといけない支援」が何でも屋になり兼ねないとい
うことがあった。豊中市の仕組みとして基幹連携会議や法律相談など皆で集まって
考える仕組みがあることに評価を頂いている。そういったことが強みになり、どこ
までもやらなくていいところに繋がることが見えてきた。一方で、他の支援機関か
ら何でも屋と思われがちで、相談員に動いて欲しいという相談に繋がったり、今年
度の相談支援体制になってから、身近に相談する仕組みが以前と変わっていて、指
定特定の相談員が迷っている現状がわかってきたところが課題として挙げられる。
今年度、相談支援体制が動いている中で、課題が出てきているので、協議会で話が
できればと思っている。

委 員 <居宅介護・移動支援事業者連絡会>

役員会・全体会議はまだ開催されていないので報告はできないが、一昨日（2月
14日）、コロナの会議に出席している。現場の課題等の報告する機会があり話をさ
せていただいた。役員会を3月中に開催する方向で日程調整を行っている。

委 員 <グループホーム事業者連絡会>

令和6年度から障害福祉サービスを行っている事業所で BCP（事業継続計画・避
難確保計画）の義務化が言われている。現在は努力義務の間に、各事業所で作成がで
きればと BCP の専門家の先生を招いて3回研修を行った。各事業所で BCP を作成
するにあたり、どうやって作成していくといいかなど生きた BCP の作成に繋がって
いったと思っている。より細かな、各事業所で苦手とするところ、整っていないとこ
ろにフォーカスできたのではないかとと思っている。BCP は1回作成して終わりでな

く、毎年グレードアップできるように続けて研修を行っていく。

事務局 <障害者日中活動事業者連絡会>

役員会の開催を模索しながら進めていたが、3月20日に全体会議を開催する運びとなる。障害者虐待防止法について研修会と情報交換会の進行となっている。障害者虐待防止法に関しては、今後全ての事業所に研修が義務化されるので、その経過から日中活動事業者連絡会で研修を実施することになる。日中活動事業者連絡会は、生活介護、就労移行、就労継続A型、就労継続B型、自立訓練の事業所が集まっている連絡会。

委員 <就労支援事業者連絡会>

役員会議を年6回、研修会も年6回行っている。研修会は直近では1月12日に行い、ハローワークと大阪市（就労移行）と神戸市北区（就労継続B型）の方を招き勉強会を行った。今度3月2日に研修予定で、指導監査課からの情報提供と職業センター、就労定着事業所からの報告で勉強会を開催予定。豊中市にある就労移行と就労継続A型・B型の事業所がわかる一覧の冊子を原稿があがり作成しているところで、今年度中に皆さんに配布を考えている。

委員 <障害児通所支援事業者連絡会>

来週火曜日（2月21日）に今年度最終のこども相談課と事業者連絡会の共催研修として、関西医療大学の先生を講師として個別支援計画について講義いただく予定。来年度から新しい役員を迎えて取り組んでいく。昨年、近隣市で発生した放課後デイの事故を受け、役員で行方不明者の児童の流れについて作成をしており、連絡会を通して来年度に運用できるよう話し合っていく。来年度の連絡会の開催について、これまでコロナ禍でZoomでの開催が多かったが、対面での開催にシフトしていくことになる。講演の回数は少なくなるが、各事業と繋がっていけるように事例発表を行っていく。各事業所がどのような支援を行っているかについてそれぞれの事業所を知ることから始めたい。また、1年に1回求められている自己評価と保護者評価について、それぞれの事業所が連絡会の中に持ち寄り、アンケートの中身について確認して正しい理解に繋げていくように考えている。

案件 2. 各部会からの報告

(1) 地域課題検討部会

部会長 【資料 1－①】を用いて説明)

委 員 障害者の相談ができる窓口は多ければ多いほどいい。人員が増やせないという話があるが、将来的には「1」の△は○に近付けてほしい。

委 員 行動障害のある方の特性・個性を十分理解して技量を上げていく「支援の標準化」が言われているが、個々の利用者と関係性を築いた職員が本人の安心を提供できる重みを軽んじていると感じており、丁寧に進めていって欲しい。「自立生活支援会議」は大事なことと思う。誰かが決めるのではなく、本人に提供して納得する中でやっていく必要がある。

部会長 「1」が大事というご意見は、日々感じています。ただ、簡単に増やせないので、こういう場で協議して、必要性を皆で共有しながら行政と協力し合いながら形にしていく必要性を感じている。

「強度行動障害」だからと一くくりにした理由でいろんなものを展開していくことに違和感を感じている。まず本人がどのような生活を望んでいるのかについて、本人の意向を確認することは非常に難しいがそういう姿勢で向き合っていくことがすごく大事であるとアンケートを取って感じたところ。

委 員 相談窓口で人員を増やすことはいいことと話があったが、相談できる人が本人中心に考えていける相談者でないといけないと痛感した。今あるサービスに支援者や家族の困りごとを中心に、短期入所の支給決定があった方がいいと考えるのではなく、本人はどう思っているかを考えていける相談員の底上げが必要と感じた。

「自立生活」とワードがあるが、親御さんに頼らないところなのか何をもっての「自立生活」なのか。体験プログラム等「事前」について、年代に差しかかってなのか、もう少し前の学齢期なのか、部会で意見が出ているか聞きたい。

部会長 相談員については、本人中心に考えられる支援者をどう増やしていけるかは大事で部会でも話は出ている。

「自立生活」について、この話は丸3年になる。最初は親御さんがいなくなっての生活がこれから増えてくるという課題があったが、実際アンケートやインタビューを重ねる中で、本人がどんな地域生活を送りたいかについては、今ここに住んでいる時点から本人がどう住みたいかを考えることが「自立生活」の捉え方ではな

いかという意見になる。そうなる子供の頃から、どんな風に地域で本人がいろんな人と関わる中で生きていくかが大事という議論もあり、子供の頃から考えるべきと大きなテーマとなっている。広がるとなかなか進まない部分もあるが、協議会としては取り組まないといけないテーマなので、そこも視野に入れて議論する必要があると感じている。

委員 「自立生活」は身体障害をお持ちの方達が、地域で自立したい意思をもってその施設から出て生活することが「自立生活」であるが、自ら介護者を集めて福祉サービスを要求して自立生活が成り立つことが明らかになってきている。一人暮らしがしたい思いとセットで「自立生活」の話をしているが、正確には「援助付き自立生活」のあり方である。在宅で生活しながら、過剰に親に頼らずに本人が様々なサービスを使って家族と生活していくことも一つの「自立生活」の選択肢である。家族だけに負担が集中することが、レスパイトや親亡き後はどうなんだろうとなる。一人暮らしをすることが「自立生活」という考え方を変えていかないと行動障害の方たちの自立生活はほぼ不可能になる。

部会長 本人にとっての「自立生活」がどういうものであるか、ご本人の意向をどう汲み取り形にしていくのか、大きなワードで進めるのではなく、一人ひとり向き合って大事にして豊中モデルを考えていかないといけないことを皆さんの意見を聞いて感じたので、それを踏まえて議論を深めて形にしたい。

（２）地域包括ケアシステム推進部会

部会長 【資料２－①～②】を用いて説明）

委員 ピア活動すると自信になります。よかったですと思います。

委員 なぜピア活動に注目して絞ったのか。

部会長 自信を持てると話していただいたのは非常に後押しになる。

（ピア活動について） どういう風に協議の場を運営していくか事前に２回協議を設けて出ていた。繋がりを持つことにおいて、支援機関や支援者との繋がりだけが繋がりでない。繋がり方についても面と向かって会うだけでなく、コロナ禍が後押ししたがオンライン上での繋がり、いろんなネットワークを活用している現状がある。その繋がりを誰に望むかとなると家族や友人に求める。身近に相談ができる人との繋がりをしっかりと作っておく必要があるとの声からピア活動に着目をした流れがある。

案件 3. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議の場について

事務局 （【資料 3】を用いて説明）

事務局 今後、5 月 7 日が一つの基準になると思われるが、部会でどういう対応するかを考えていきたい。

案件 4. その他

事務局 個別事案はなし。

今年度の第 4 回目で自立支援協議会は終了となる。会長は昨年春に任命されているので任期は継続となる。委員の皆さんも基本的に引き続いてお願いします。各団体を代表していただいているので、変更があれば事務局に報告ください。

全体会議は 5 月・8 月・11 月・2 月に開催しており来年度も変わらず。次回予定は 2023 年 5 月 25 日が令和 5 年度の第 1 回となります。各部会は 2 月、3 月、4 月も行っているので、継続の報告をさせていただく。

会 長 （閉会の挨拶）

今日はありがとうございました。自立やピア活動をもっと進めていかないといけないことや他機関との連携をもっとした方がいいという話が出ていましたが、やっていかないといけないと思います。コロナに関してもいろんな課題があると思いますが、できることを考えていかないといけないと思います。また次年度も模索していけるといいと思います。よろしくお願いします。

事務局 令和 4 年度第 4 回自立支援協議会を閉会致します。

—閉 会—